

平成 28 年度（第 60 回）
岩手県教育研究発表会発表資料

外国語活動／外国語分科会

全教員で取り組む、外国語活動の校内推進

～児童がコミュニケーションを図ることの楽しさを実感できる授業を目指して～

平成 28 年度 2 月 10 日
久慈市教育委員会
久慈市立大川目小学校
桜 庭 大 輔

0. 研究動機

(1) 児童の実態

- ・素直な児童が多く、指示されたことや決められたことに対して、まじめに取り組む。
- ・ゲーム等の活動は好んで行う。
- ・発表することを恥ずかしがる児童が多い。
- ・実際のコミュニケーション場面では、積極的に英語で話そうとする児童が少ない。

(2) 指導の実態

- ・校内で蓄積した指導案を参考にしながら、児童の実態に合わせ修正を加えながら授業に臨んでいる。
- ・クラスルームイングリッシュの語彙が少ない。
- ・蓄積された教材の効果的な活用が十分にできていない。
- ・児童が意欲をもって活動に取り組みたくなる授業づくりが不十分である。

1. 取組目標

児童がコミュニケーションを図ることの楽しさを実感できる外国語活動の授業づくり

2. 重点課題

- ①教員一人ひとりが、クラスルーム・イングリッシュを豊富に使用できるようになること。
- ②ALT の活用、教材の使用方法を全員が会得し、児童が生き生きと活動する授業を設計すること。
- ③小中連携の観点から、外国語活動を通して体験させるべき活動の内容・方法を探ること。

3. 具体的な取組

(1) 外国語活動の授業公開

- ・校内教員同士の授業参観
- ・外国語活動の授業研究会

(2) 外国語活動の校内研修の充実

- ・校内研修会におけるマイクロ・ティーチング（中核教員が進行）
- ・職員会議の場を利用した、C.E（クラスルーム・イングリッシュ）の紹介と資料の配布

(3) 教材・教具・ALT の活用方法の共有

- ・指導案の基本枠、振り返りカードの提示
- ・”Hi, friends!!” 補助資料の共有
- ・各担任が作成した指導案を閲覧・活用できるように整備
- ・ALT の効果的な活用方法の情報交換

(4) 小中連携

- ・学区の中学校との互見授業
 - 8月31日 大川目小学校5学年（授業研究会）
 - 9月23日 大川目小学校5学年（県事業）
 - 11月29日 大川目中学校2学年（校内研究会）
- ・中学校英語の体験授業
 - 平成29年2月23日（中学校入学説明会）

4. 研究推進へ向けた取組

(1) 大川目小学校版「英語が好きになる授業づくり3つの目標」の立案

目標1 子どもの声が聞こえる授業

- 教師の声を控えめにし、児童の音がたくさん聞こえる授業にする。
- クラスルームイングリッシュの使用により、指示を簡潔にする。
- 児童同士の活動を大切にし、教師はやりとりを観察・支援する。

目標2 英語が使いたくなる授業

- 活動の動機づけとなる本時の課題（Today's めあて）を設定する。
- 一つ一つの活動のつながりを大切に授業の組み立てをする。
- 視覚的に（英語の）文字を使用し、児童が自力で活動するための板書を工夫する。

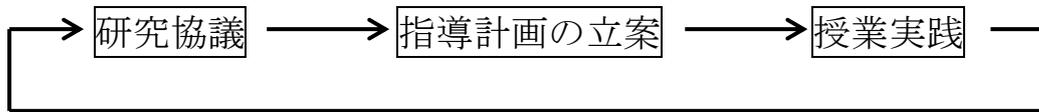
目標3 友だちと関わりたくなる授業

- 話し合いによる気づきの共有。語彙や表現への慣れ親しみを仲間と共に進める。
- 各セクションに配置された Activity を活用し、児童同士の関わりを充実させる。
- 対話による情報収集を意図的に言語活動へ盛り込む。

(2) ねらい

- ・外国語活動を通して、どんな児童を育成したいのか。そのためにどんな授業を目指すべきかを示す。
- ・教材研究～指導案作成～授業実践までを貫く約束を示す。
- ・授業研究の際に、協議の柱となる視点を示す。

(3) 授業づくりのサイクルを確立



5. 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・「英語が好きになる授業づくり3つの目標」の活用による、指導の改善と研究の推進。
- ・高学年担任以外の教員も参加できる、外国語活動の授業研究会を実施。
- ・教材、指導案、教材・教具、指導方法の共有システムを構築。

(2) 課題

- ・「英語が好きになる授業づくり3つの目標」に沿った授業研究の深化。
- ・振り返りカードを活用した評価方法の確立。(児童の活動・教師の指導)
- ・小中連携を図るための具体的な計画の立案。

6. 研究の方向性

- ・授業参観とマイクロティーチングを連携させた校内研究会の充実を図る。
- ・外国語活動の評価方法について、研修を深める。
- ・小中互いの授業を参観、校内研究会にて意見交流を行う。